

『執着 α は β の私と番になりたい』勘違いから始まつた片思い』

■世界観

「オメガバース」とは

男女という生物学的な性別の他に、 α （アルファ）、 β （ベータ）、 Ω （オメガ）の3つの性が存在。この3つの性を「第二の性」と呼び、これらには序列が存在する。

α は「第二の性」の階級の中で最高位に君臨し、身体能力・知能が高くなりやすい、いわばエリート階級。

発情中の Ω との接触は、どんなに理性的な α であつても抗しきれない強烈な発情状態を引き起こし、時に暴力的なまでの性交に及びかねないため、この性質を嫌悪する α もいる。

β は α に次ぐ階級で最も人数が多く、いわゆる平凡な人。

発情期も存在せず、 Ω の発情に誘惑される事もあるが、 α ほどの激しい反応は起ららず、自制も可能。中にはフェロモンがまったく効かない人もいる。

Ω は最も低い階級で、希少な存在。

周期的なヒート（＝発情期）が起り、自身の意に反して α を誘惑・発情させるフェロモンを発する。通常の生活を送ることが難しいため、社会的に冷遇されている。

「ヒート」とは

Ω の発情期があるように、 α の発情期は「ラット」と呼ばれている。

「ラット」中自分の番への庇護欲が過剰なくらい増して威嚇的で攻撃的になる、抱き締めたまま離さない、誰にも見せない、近付くことさえ許さないなど、周囲への態度が急激に変わる場合もある。

「ラット」とは

「番（つがい）」とは

ヒート状態の Ω が α にうなじを噛まれると「番」と呼ばれる関係になる。

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

α との「番」が成立することで発情が変質し、フェロモンを放出しなくなる、
またはヒートそのものが収まる場合もある。

「運命の番」とは

通常の「番」とは異なり、本能的に惹かれ合う非常に強固な関係性。

■キャラクター詳細

●主人公

名前：一ノ瀬 樹（いちのせ いつき）

年齢：22歳

身長：180cm

α 。一流大学医学部学生。

代々医者の家系で、富裕だが家族関係は淡白。

β と Ω に偏見はなく、学校にも β と Ω の友達がたくさんいる。

最近 β の友人が骨折し、その友人の代わりにアルバイトをしていたが、
バイト中ヒロインに出会い、ヒロインを好きになった。

育ちが良く、普段は優しいが、本質的には α であり、
好きな人や物に強い支配欲を持つている。

●ヒロイン

年齢：21歳

β 。歯科衛生士専門学校学生。

α の母親は自分を産んだ後、運命の番に出会い、父と自分を捨てました。
その後は同じ β の父と暮らしている。

α と Ω は自分と同じ人間ではないと思い、ずっと距離を置いる。

同じ β の人と結婚して子どもを産んで、普通の幸せな生活を望んでいる。

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

優しい樹くんも同じβだと思つてゐるが、
彼は「ウチは代々、αで医者の家系です」と告白。
何度も確認した後、あなたは

「αとΩは結ばれる運命」、

「βの私はαの愛を受け入れることができない」

とか言い出して、思い切つて彼を拒絶。

数日後、他のΩのヒートに影響された樹は、

何とか意識を持つてあなたのものとに、

しかし、まもなく彼は理性を維持できなくなる……。

樹くんは執拗に番行為を行つており、

心身ともに苦しんでいるβであるあなたとは違い、

樹くんはやつとあなたを手に入れたことを幸せに思つてゐる。

樹くんの執着を感じて、

あなたは悲しみと恐怖を感じながら、

心の中に少し優越感を持ち始める。

思いがすれ違う二人、

相手の本当の愛を得られないと思つてゐる二人、

お互いを手放せない二人、

苦しみながら体を重ねる二人……

■ ト ラ ッ ク 1

※樹はヒロインに告白したが、ヒロインに断られた。

○場所：バイト先のバックヤード（昼）

【ヒロイン 『……すみません……』】

【樹、困惑した様子でヒロインに詰め寄る】

D H M :: ①

樹 「（ショックを受けた様子で）どうして、俺じやダメなんですか：」

そりや、俺は骨折した友達の代わりに、少ない間しかここにバイトに来てないし……
あなたとも、まだ知り合って数カ月だけど……でも、この気持ちは本物なんです！
わかつてください！ 俺は……あなたのことが……」

【ヒロイン 『すみません、私が勘違いしました。ずっと樹くんをβだと……』】

樹 「……え、（小声で）俺に親切にしたのも、俺をβだと勘違いを……
（何かを思い出すように、小声で）道理で他のαにはそんなに冷たいのに……
俺だけが特別だと思つて……」

【ヒロイン 『樹くんは優しいからこんな勘違いを……樹くんは、αですよね……』】

樹 「その、たしかにウチは代々、αで医者の家系です。俺も医大に通つてゐる。
……だからって、それがフランの理由になりますか？
俺はαだから付き合えないってことですか……？」

【ヒロイン 『それは……樹くんはαで私はβですか……』】

樹 「……あ！ 階級差が心配なら、気にしないでください。
俺はβとΩに偏見を持てないです。」

ほら、βの友達のためにバイトに来てるぢやないですか……」

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

【ヒロイン『私の母も α だった!……』】

樹 「あなたのお母様も α だった? でも、あなたの性別は β ですよね……
たしかに、 α の家系にもたまに β は産まれるけど……」

【ヒロイン『父は β です……』】

樹 「あ、お父様が β なんですね。すみません……」

【ヒロイン『母は私を産んだ後、運命の番に出会ったという一言を残して家族を捨てた…』】

樹 「(悲しそうに) α のお母様は運命の番を見つけて、自分と父を捨てたつて……」

【ヒロイン『樹くんにも運命の人がいますから、その人と幸せになつてください……』】

樹 「俺にも、あなたのお母様のように運命の人がいる?

その人と幸せになつてください? なんなんですか、それ……」

【樹、ヒロインに迫る。】

SE : 樹の足音

D H M : ①寄り

樹 「(激昂した様子で) こんなフラれ方、納得できません!」

たしかに俺は、 α でのフェロモンに当たられそうになつたこともあります!
でも、好きなのはあなただけだ。信じてください!」

【ヒロイン『もう、諦めてください! 樹くんを嫌いになりたくないです……』】

樹 「……あ、……(打ちのめされた様子で) 謎めて欲しいつて…

そんな、俺が α だからダメつて…?」

あなたと違つて、運命の番がいる存在だから…?
(泣きそに、苦笑い) ……そんなの、あんまりです……」

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

(3秒の間)

【樹、ヒロインから離れ】

SE..樹の足音

D H M .. ⑨

樹 「……（長いため息のあと数秒の間）でも、

（苦笑い）人の気持ちはどうしようもないですよね…

（悲しそうに、無力な感じ）すみません。今日は忘れてください……

本当に、ご迷惑をかけしました……

【樹、離れる。】

SE..樹の足音でフェードアウト

■ ト ラ ッ ク 2

※数日後、発情する樹、アパートの前でヒロインを待ち伏せ
○場所..ヒロインのアパートの近く（昼）

【ヒロイン買い物を終えて家に帰る途中】

SE..ヒロインの足音 ゆっくり歩く

【道端で体調が悪そうな樹】

D H M .. ⑨少し遠め

樹 「……（息苦しそうに）はあ、はあ、もう……」「…

【ヒロインは樹を気づき、彼のもとへ】

SE..ヒロインの足音 走る

【ヒロイン『樹くん？ どうしたの？ 体調が悪いですか。』】

D H M .. ①

樹 「……はあ、あー……あなたは……」

（息苦しそうに） 大丈夫です、少し熱が……あ！」

【樹、めまいがして、立つていられない様子。彼を支えるヒロイン】

【ヒロイン『樹くん危ない！』】

SE..衣擦れ音

D H M .. ①寄り

樹 「（息苦しそうに） ……はあ、ありがとう……支えてくれて……ちょっとめまいが……」

（苦笑い） はは……本当に人好しだすね、あなた……

振った相手にも、まだこんなに親切に……」

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

樹 「（小声で）やつぱりあなたは隙だらけだ……

まあ、俺もそんなあなたに惹かれたんだけど……」

【ヒロイン『え、何?』】

樹 「（息苦しそうに）ああ……」めん。やつぱり帰ります……

あなたは、俺の顔も、見たくないよね。

あの後、シフトもずらした……」

【ヒロイン『何を言っていますか。このままの樹くんを放つておけないよ。』】

樹 「このままの俺を放つておけないって……やさしい……

（息苦しそうに）では、どこか休憩できる場所を……俺は少し休めば……」

【ヒロイン『ウチはすぐそこだから、あがつて少し休みましょう。』】

樹 「（うれしさをこらえるように）あなたの家に？ 本当にいいですか？」

……ありがとう、では、お邪魔します……」

【ヒロインのアパートに向かう二人】

SE：樹とヒロインの足音でフェードアウト

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

■ ト ラ ッ ク 3

※ ト ラ ッ ク 2 の 続き。

○ 場所 .. ヒロインの部屋 (昼)

【樹、ヒロインに抱えられ部屋に入る】

SE .. ドアの閉まる音

SE .. 樹とヒロインの足音

D H M .. ③ 寄り

樹 「ちょっと、もう……支えなくていいから……」のままだと、あなたを……俺は……」

【樹、壁にもたれかかる】

SE .. 壁にもたれる音

樹 「(息苦しそうに) う……ああ……ダメだ。

もう、体が……もたない……はあ……はあ……」

【ヒロイン『樹くん！ あと少しでソファーに着きますよ。』】

樹 「……はあ……はい……ソファーに……」

(苦笑い 小声で) 本当に、ラット中の男を部屋に連れ込むとか、
なに考えてんだよ……」

SE .. 樹とヒロインの足音

【樹とヒロインソファーに着く、ソファーに倒れる樹】

SE .. ソファーに倒れる音

【ヒロイン『……でしばらく休んで、飲み物を持ってきます。』】

D H M .. ① 下 やや離れ

樹 「…………はあ…………ありがとう…………水で…………」

【ヒロイン飲み物を取りに行く】

SE .. ヒロイン遠ざかる足音

SE .. 冷蔵庫の開閉音

SE .. ヒロイン近づいてくる足音

SE .. ペットボトルの蓋開ける音

D H M .. ①

樹 「…………ありがとう…………（水を飲む ゴクン数回）」

【ヒロイン『大丈夫ですか？ そこでなにしてるの。』】

樹 「え、そこでなにしてるのつて。あなたに会いたくて…………」

【樹、話をしながらペットボトルをテーブルに置く。】

SE .. ペットボトルの蓋閉じる音

SE .. ペットボトルをテーブルに置く音

樹 「…………あなたの履歴書を見かけて、住所を覚えた。

住所だけでなく、他のことも覚えたよ。αは頭がいいからね…………

俺、けつこうそういうの覚えるのが得意だつたから、それで……」

【ヒロイン『え？！ なぜそんなことを……』】

樹 「……なぜって、会いたかつたから！ だからこれもあなたのせい…………」

【樹、ヒロインの腕を掴む】

SE .. 腕を掴む音

【ヒロイン『樹くん…………？ 何を…………』】

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

D H M .. ①寄り

樹 「……被らないように、シフトずらしたから、

俺は、あの〇の子と一緒に出勤しなければならなかつた、
あの子、急に発情したんだ……」

樹 「……あの子のフェロモンに当つても、

あなたのことしか考えられないんだ……

俺はまだ、でも、〇の発情に影響なんてされたくない！

あなたを愛したい……だから俺は……なんとか理性を保つて、
あなたのアパートの近くまで……

なあ、俺を連れ込んだつてことは、あなただつて俺のこと……」

樹 「……んつ……はあ……（色気を出す感じで）ごめん。でも、もう耐えられない……

はあ……はあ……逃げなかつたあなたが悪い……うん……はあ……

（強引な感じで ディープキス5秒）」

【ヒロイン、驚いて暴れる。暴れるヒロインを押し倒す樹】

SE .. 衣擦れ音

SE .. ソファーに押し倒す音

樹 「ん……こら、暴れるな……はあ……はあ……怯えてる？

そうだよね。だつて、俺に襲われて……

あなたに会えなくて、寂しかつた……」

【樹、ヒロインを抱きしめる】

SE .. 衣擦れ音

D H M .. ③寄り

樹 「大丈夫。あなたの母親みたいに捨てたりなんてしない！

俺は、あなたの母親とは違うから……

だから、俺を受け入れて……」

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

【暴れるヒロイン】

SE：衣擦れ音

D H M ①寄り

樹 「……んつ……なんで、なんで暴れるんだよ！ 絶対に逃がさないからな！
……なあ、俺がこんな姿になつてるの見て、どう思つた？

やつぱり、 β と α は別ものか？ 俺は、ケダモノに見えたか？」

【ヒロイン『……苦しい……』】

樹 「……苦しそうつたつて……

（怒りを露に） そうだよずつと苦しい！

α つてだけで、ずっとてつぺんにいなきやいけない！

Ωのヒートには当たられる！

好きな人には、 α つてだけでフラれて……

俺は、俺らしく生きることも許されない！ あなただつたら……

優しくしてくれたあなただつたら、俺を受け止めてくれると思ったのに！」

【樹、ブラウスを無理やり脱がせる】

SE：衣擦れ音

SE：ボタンのはじけ飛ぶ音

【ヒロイン『……やめてつ…』】

樹 「やめてつて、どの口が言つてるんだよ……

自分で、部屋に誘つたくせにさー！」

【ヒロイン『イヤ！』】

樹 「はは…悲鳴をあげるほど、俺つて怖い？ そ、うだよね。

ブラウス無理やり脱がされたもんね……

恐くない方が、おかしいよな…」

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

1 樹 「（嘲笑を交えながら）
でも、怖がつて暴れられたら厄介だな……
そうだ、俺のワイシャツで……」

【樹、ワイシャツを脱いでヒロインの腕を拘束】

SE.. ワイシャツを脱ぐ音
SE.. ヒロインを拘束する音

9 樹 「……はは……これで動けないな、何をしてももう無駄だ」

D H M .. ⑦寄り

13 樹 「はあ……はあ……（右耳舐め5秒）……どう……？」

14 好きでもない男に、迫られてる感じ……なあ、どんな感じだよ。
15 母親と同じ、自分を捨てた々に迫られて……感じてたり、しないよな……」

【ヒロイン『…そんなことない……』】

D H M .. ①寄り

21 樹 「（嘲笑を交えながら）そんなことないって……」

22 でも、ブラジャーの上からもわかるぐらい乳首はビンビンに立つてゐるよ……
23 真面目そうに見えて、ほら、あなたの乳首……さわつてやるから感じてみなよ……」

【樹、ヒロインの乳首を弄る】

SE.. 衣擦れ音

【ヒロイン『……イヤつ……』】

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 8 7 6 5 4 3 2 1 樹 「はは。いい声で鳴くなあ……経験済みなのかな?
そんなこと話したくないつて……
でも、こつちに聞けばわかるよね……」

【樹、ヒロインの下着を脱いて、手マン】

SE..下着を脱がせる音

【ヒロイン『……やめてっ…』】

D H M .. ①寄り

8 樹 「やめてって言われて、やめる男がいるわけないだろ。はは……

9 ほら、やつぱりグチョグチョだ……

10 乳首ちょっとさわっただけなのに、こーんなに濡れちゃつて……

11 αの男は嫌いじやなかつたのかなあ？ はは……

12 やめてつて、じやあ見せてやるよ！ ……ほ、ら……んつ…』

13 【樹、ヒロインを抱きかかえる 背後から】

SE..衣擦れ音

16 SE..指を挿入する音

17 SE..水音適宜（指入れ出したり、搔き回したり）

D H M .. ⑤寄り→⑦寄り

21 樹 「（挑発するように）ほら、アソコに鏡があるじやないか、

22 ははは、広げてやるから見ろよ！ 自分の痴態を見てみろよ！

23 俺の指を咥えて、嬉しそうにひくついてるよ、

24 もつと…気持ちよくしてやるからな……』

25 樹 「（台詞の合間で右耳舐めしながら）ほら、いい声出して…：

26 ねえ、まだ人差し指しか入れてないのにすづぐく締め付けてくる、

27 期待してるんだな……』

29 樹 「（嘲笑に交えて）

30 そんなことはないって、鏡の中の自分を見てみなよ……

31 ほら、下の口が嬉しそうに指を咥えてる、

32 指の数、増やしてみようか……』

33

1 樹 「（台詞の合間で右耳舐めしながら）
あはは……すっぽり入つていくなあ…
俺の指、そんなに気持ちいい？
そんなことないつて、気持ちよさそうによがりながら言われても…
もつと欲しいんだつて、勘違いしちゃうだろ？」

6 5 4 3 2 1 樹 「（嘲笑に交えて）
ほら、刺激が欲しいと思うなら動かしてやるよ……
あはは！ 体がビクつてなつて、
俺の指で感じてくれるんだね。嬉しいなあ……（右耳舐め5秒）
なあ、振つた♂の男に犯されるつてどんな感じ？ やつぱり、屈辱的…？
でも、気持ちよさそうなのはどうしてだらうな！
ほら、鏡の中のあなたの顔。気持ちよさそうな顔してる……」

7 樹 「俺に犯されて、喜んでるメスの顔だ……
はは…新発見だな。♂でも♂の男に犯されて喜ぶなんて…
本当は、○何じゃないのか！」

14 13 12 11 10 9 8 7 樹 「（ヒロイン『……やめてつ…』】
ああ！ やめてつて、叫んでも、
あなたが指に食らいついて放してくれないんだよ、
(右耳舐め5秒) ♂は♂とセックスするのは大変だから、
ほら、指の数、もう一本増やしてみようか！」

25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 樹 「（嘲笑に交えて）
はは、どこまでイげずに耐えられるかな！
ほら！ ほら！ もつとその声聞かせてよ！
あなたのよがり声、本当に最高だ！」

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 樹 「（嘲笑に交えて）
SF.. 水音適宜 速く

1 樹 「（興奮した様子で）

俺を拒絶したあなたが、俺に犯されて喜んでる！

俺を受け入れてくれている！

そう！ あなたは、♂の俺に惹かれてるんだよ！
でなきや、こんな風に喜ぶもんか！ 」

7 【ヒロイン、潮を吹く】

SE.. 潮吹き音

SE.. 水音止め

D H M .. ⑥寄り

D H M .. ⑥寄り

樹 「（驚いた様子で） うわ！ なんだ…潮吹き？

まさか、ちょっと奥を突いただけでいくなんて…」

樹 「（嬉しそうに） よっぽど、俺に犯されたことが嬉しかったんだな… はは…

…違うつて…じゃあ、なんでこんなに濡れたままなんだよ、

それにほら、まだ犯してほしいって大切なところがヒクついてる…」

樹 「大丈夫。もつと、気持ちよくしてやるよ…ほら、指、三本目挿れるよ…

これが入れば、俺を受け入れても平気だろうね…」

え？ なにをするつもりって、これの、続きを決まってるだろ！」

SE.. 指を挿入する音

SE.. 水音適宜

D H M .. ⑥寄り→③寄り

樹 「（笑いながら） はは！ また体がビクつてなつて、
でも残念…まだ潮吹きはナシかあ、

じゃあ、吹くようにここも刺激してみようか…

可愛いクリストス… ほら、可愛いがつてやるから…」

33

32

31

30

29

28

27

26

25

24

23

22

21

20

19

18

17

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

【樹、クリストスを弾く】

SE..肌擦れ音

【ヒロイン『はあつ……』】

6 樹 「はあ、すつごい悲鳴……」

7 聞いてるだけで、こっちがクラクラしてくる……」

8 樹 「（興奮しながら）本当に、早くあなたに挿れたいよ！」

9 樹 「挿れて、犯して、俺の種をあなたの中に吐き出して……（左耳舐め5秒）

10 それから、それから……ははは……やめてつてなに……」

11 12 樹 「（台詞の合間で左耳舐めしながら）

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 樹 「（嘲笑を交えながら）

ほら、鏡の中のあなたはすつごく気持ちよさそうな顔してる、

声だつて、ほら……すつごくエッチな声が出てるよ

俺のこと、誘つてるとしか思えないな……」

（左耳舐め10秒）

【ヒロイン、潮を吹く】

SE..潮吹き音
SE..水音止め

【ヒロイン『はあ、はあ……んんつ……』】

樹 「あ、またいい声で鳴いた……

Gスポットつてヤツをきわつちやつたのかな？」

それに、また潮も吹いて……

これ、キレイにしないとな……（左耳舐め5秒 フェードアウト）」

- 1 ■ ト ラ ッ ク 4
- 2 ※ ト ラ ッ ク 3 の 続 き。
- 3 ○ 場 所 .. ヒ ロ イ ン の 部 屋 (昼)
- 4
- 5 【樹、ヒロインのヴァギナを舐める】
- 6
- 7 D H M .. ① 下 寄り (下 半 身 ら へ ん)
- 8
- 9 樹 「 (クンニ し な が ら) …… う ん …… は あ …… う ん ……
- 10 へえ …… 工 口 い 句 い …… そ れ に 、 舐 め て る と 舌 に 粘 液 が ひ つ つ い て き て …
- 11 う ん …… 変 な 感 じ …… で も 、 (微 笑 む) あ な た の 愛 液 、 す つ ご く 美 味 し い よ …… 」
- 12
- 13 樹 「 (クンニ し な が ら) う ん …… は あ …… は あ …… ねえ 、 こ ん な 風 に 舐 め ら れ て 気 持 ち い い ?
- 14 気 持 ち い よ ね 、 だ つ て 、 す つ ご く い い 声 で 鳴 い て る 、
- 15 も つ と し て 欲 し い つ て 、 僕 お ね だ り し て る み た い 、
- 16 は は …… あ な た も 結 局 は α の 大 好 き な メス じ や な い か ? 本 当 に β な の か ?
- 17 本 当 は ○ で 、 誤 診 断 を 受 け た か 、 自 分 で 性 別 を 偽 つ て る ん じ ゃ な い の ? 」
- 18
- 19 樹 「 (クンニ し な が ら) そ ん な こ と な い つ て …
- 20 じ や あ …… う ん …… な ん で こ ん な に …
- 21 は あ …… 感 じ て る ん だ よ …
- 22 は あ …… は あ …… う ん …… だ い ぶ キ レ イ に な つ た …
- 23 で も 、 ア ソ コ の 中 は ま だ ち ゃ ん と 舐 め て な い …
- 24
- 25 樹 「 (楽 し そ う に) う ん …… は は ……
- 26 穴 に ち ょ つ と 舌 を 入 れ た だ け な の に 、 気 持 ち よ さ そ う に な つ て 、
- 27 ほ ら 、 も つ と し て や る よ …… 」
- 28
- 29 樹 「 (クンニ し な が ら) う ん …… は あ …… う ん …… は あ ……
- 30 凄 い な あ …… あ な た の 中 が 僕 の 舌 を 締 め 付 け て く る 。
- 31 う ん …… は あ …… う ん …… な ん か 、 そ のま ま 食 い 千 切 ら れ そ う ……
- 32 す つ ご い 力 …… ど れ だ け 物 欲 し が つ て る ん だ よ ……
- 33 う ん …… は あ …… う ん …… は あ …… あ ん …… 」

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

【樹、ヒロインを抱きかかえる 背後から】

SE..衣擦れ音

SE..肌擦れ音

【樹、鏡の方向にヒロインの足を開く】

D H M .. ⑤寄り→⑦寄り

樹 「……ふう……ほら、キレイになつたよ……鏡でよく見て。

俺に舐められたあなたの大切なところ……」

これからここに、俺のを挿れてあげるからね……」

【抵抗するヒロイン】

SE..衣擦れ音

樹 「（嘲笑うように）……ほら、暴れたつて無駄だ！」

「そうだな……このまま後ろから挿れてみるか、

ケダモノみたいで面白いだろうな！」

やめてつて……どの口が言つてるんだよ！ だつたら俺を、助けたりするな！」

SE..挿入音

SE..水音・ピストン音適宜 ゆつくり

【背面座位でセックスするふたり。】

D H M .. ⑤寄り

樹 「（嘲笑うように）はは……凄いな……奥まで入っちゃつた……

でも、締め付けが凄い……ガバガバじゃない……ねえ、やつぱり、初めて？」

樹 「そんなの言いたくないって……」

まあ、あなたをやつたことあるヤツがいても……はあつ、はあ……

これから、上書きするから意味ないんだけどね！

（ゆつくりピストンに合わせてえぎ声10秒）

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

樹 「はは！ どう？ 拒絶した α に犯される気分、

悲鳴なんてあげても無駄だよ……んつ、あつ、……

誰も助けになんて来ない……

あなたが、俺をここに招き入れたんじやないか

だからこれは、自業自得だよ！

（ゆっくりピストンに合わせてあえぎ声10秒）

【ヒロイン『……違うつ…』】

D H M .. ⑦寄り

樹 「……違わない！ あなたは俺のことを受け入れたかつたんだ！

だから、発情した俺を部屋に招いた！

だろ！ そうだろ！ ずっと、ずっと俺のことが気になつてたんだろ！

気づいてないとでも思つた？……

（ゆっくりピストンに合わせてあえぎ声10秒）

樹 「……あなたの俺を見る目…恋する女のそれだつたよ！

あなたは俺に優しかつた……んつ…はあ……

学歴とか α とか関係なく、ひとりの人間として扱つてくれた：

だから、あなたなら平氣だと思つたのに！ はあ、はあ……うつ…

あなたなら、俺のこと……本当の俺を受け入れてくれると思つてたのに……

【ヒロイン、首を振る】

SE.. 衣擦れ音

樹 「……なんで、なんで俺を拒絶したんだよ！

α の何が悪いんだよ！ 俺は俺だ！

あなたには、 α の俺じやない、本当の俺を見てほしいいんだ！

【ヒロイン『……やめてつ…』】

SE.. 派手めの水音 & 肉を打つ音

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

樹 「（いらだつた様子で）やめてって……誰がやめるか！」

孕ませてやる！ あなたを俺のものにしてやる！

あつ…んつ…絶対に、誰にも渡さない！

……つ、はあつ。ほら、締め付けが強くなってきた……

（激しいピストンに合わせてあえぎ声10秒）

【ヒロイン『あつ、ああつつ…！』】

樹 「ははつ、あなたも腰振つてる…」

鏡見て、自分の本当の姿を見るんだ！

ほら、俺に犯されて、よがつて、嬉しそうに感じてるじゃないか！

（激しいピストンに合わせてあえぎ声10秒）」

樹 「あなたは俺のことが好きなんだよ！」

俺を求めてやまないメスなんだ！

だから、俺を受け入れて！ あなたじやないとイヤだ！」

……はあつ…んつ…んんつ…：

ああー、俺は、あなたを俺のものにしたいんだ！

（激しいピストンに合わせてあえぎ声10秒）」

樹 「ああ！ くる！ あなたの中に俺の全部をぶちまけてやる！

はあ…んつ…はあ、はあつ、やばいつ、

あなたを、俺のものにしてやる、あああ！

（激しいピストンに合わせてあえぎ声10秒、理性のない感じ）

D H M :: ⑦寄り → ⑤寄り

樹 「もう…限界だ！ あああああ！ あなたが、あなたが欲しい…

はあ…んつ…はあ、はあつ、射精しながら、あなたのうなじを噛んつてやる、

噛んつて、俺の番になつて！ 俺の番に…！

んつ…！ あつ、いくつ、はつ、んつ…！

（絶頂に向けてあえぎ声20秒） イクつ、イクつ…！

（絶頂と同時にヒロインのうなじを噛む、力加減できてない感じ）」

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

【樹、絶頂する。】

SE..水音止め

SE..射精音（長め）

樹 「（息を整える15秒）…………んつ……はあ……

（満足げに）うなじ、噛んじやつた……

これであなたは俺のもの、俺の番……

もう、絶対に放したりしないからね」

樹 「（労わる様子で）ああー、噛み跡から血が……

ごめん、気持ちよすぎて力加減が…ごめんね

（噛み痕を舐める10秒）」

D H M .. ⑤寄り → ③寄り

樹 「……んつ……もう大丈夫、血はもう止まつた。

……あれ、どうしたの？ なんで、返事しないの？

ああ、気失つちゃったのか？ ごめんね、乱暴にして……

（低い声で、囁き）でも、俺を部屋に連れ込んだあなたが悪いんだ…」

樹 「⑤寄り 噙み痕にキース）この傷跡はしばらく消えない、
これはあなたが俺の番になつた印、ずっと残しといてね、
(左耳舐め10秒)あなたはのだから、この傷跡もいつかは消える…
でも心配しないで…」（微笑む）消えそうになつたらまた噛んであげる、
癒えなくなるまで噛みつづけるから…」

樹 「はは…俺はもう、もう、ひとりじゃない、

俺を見てくれる人が手に入つたんだ…」

【樹、ヒロインを抱きしめ、肩に顔を埋める】

SE..衣擦れ音

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

樹 「（顔を覆つた様に、悲しげに笑いながら）

はは…はははははははははははははは！

やつと、やつと手に入れた…俺だけの…俺だけの…大切な人…
だからもう、俺はまだからつて、頑張らなくていいんだ

好きな人が側にいてくれるから…

これでいいんだ…はは…（悲しげに笑う5秒 フェードアウト）」

■ トランク5

※数日後、バイト先の更衣室、樹、ロツカーの前でヒロインを待ち伏せ

○場所..バイト先の更衣室（夕方）

SE..樹の足音 扉越し
SE..扉の開き音

DHM..⑩やや離れ

樹 「ふふ、更衣室で、なにやつてるんですか？」

【ヒロイン、逃げようとする】

SE..ヒロイン走る音

【樹、慌てで扉を閉め鍵をかけ、ヒロインを抱きしめ】

SE..樹の足音

SE..扉の閉める音

SE..鍵を閉める音

SE..二人がぶつかる音

DHM..①寄り

樹 「……おつと、（説得するように）待つて、逃げないで！ 亂暴にはしないから……」

【樹、ヒロインを抱きしめる】

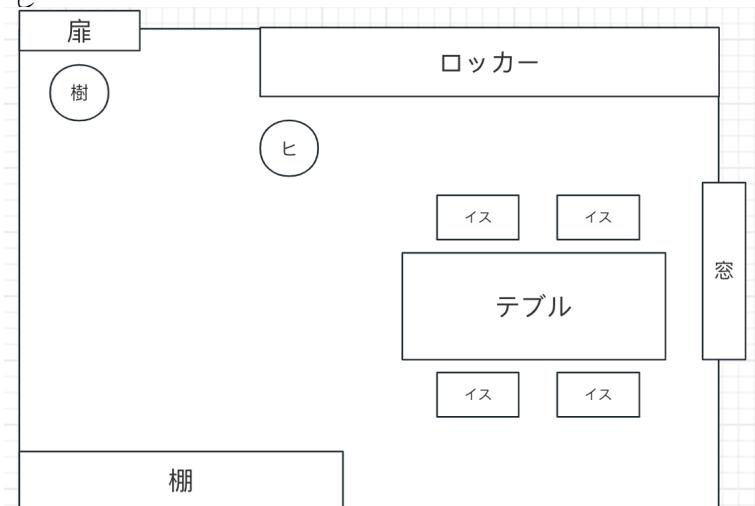
SE..衣擦れ音

DHM..⑧寄り

樹 「（囁く）あの日のことが忘れないから、
更衣室であんなことしてたんでしょう……

でも、俺のロツカーの前でオナニつて……」

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1



33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

【ヒロイン『……違いますっ…』】

【ヒロイン、首を振る】

SE..衣擦れ音

DHM..①寄り

樹 「あの日から、あなたはずっと俺を避けてた、

当たりまえだ、急にあんなことされたんだから……

でも、それは俺を誘つたあなたが悪いんだよ」

ラット状態の俺を、自分の部屋に誘つたりするから、あんなことになつたんだ…」

DHM..⑦寄り

樹 「（右耳舐めしながら）ほら、あの日のことが忘れないんだろ？」

慰めてやるよ……はあつ、んつ…俺たちは運命の番同士なんだから……

（右耳舐め10秒）

DHM..⑦寄り→①寄り

樹 「はあ……んつ。ほら、顔こつちに向けて、

せつかくだからこの前できなかつたことをしよう、

うん…（軽くキス 数回）つ…つ、はあ…

俺たち番同士なのにキスも少ししかしてないよね……ほら、愛し合おう…

うん…（軽くキス→ディープキス5秒）

【抵抗するヒロイン】

SE..衣擦れ音

樹 「んつ…なに怯えた顔してるの？ もつと、嬉しそうな顔してよ

ほら、気持ちよくしてあげる…

うん…はあ…あん…（ディープキス5秒 強引な感じで）

…はあつ、どう？ 大人のキス。」

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

【ヒロイン『……もう、放して……】

SE..衣擦れ音

【樹、ヒロインの頸を掴む】

SE..肌擦れ音

樹 「放してつて……そんなこと言わないでつて……」

（台詞の合間で ディープキスしながら）

はは…ほら、もつと、もつと感じさせてやるよ

ううん…はあ…うん…ほら、舌を絡めて…啜つて…

はあ…うん…そしたら、はん…気持ちよく…あん…なれるから…

うん…はあ…うん（ディープキス10秒）』

D H M..①寄り→⑦寄り

樹 「はは…やつぱり、あなたは俺の運命の番だよ…」

でなきや、俺に無理やりされてこんなに感じてるはずがない…

ねえ、俺に犯されたときどん気分だつた…うん…（右耳舐め5秒）

（誘惑的に囁く）どんどんどんどん…俺のがあなたの中に入ってきて…

中で出されて、種付けされて…ねえ、すつごく、気持ちよかつたでしょう？

うん…はあ…（右耳舐め5秒）』

【ヒロイン『……お願い、放して……】

SE..衣擦れ音

樹 「うん…はあ…放してつて…ダメだよ…」

あなた、今までどうするつもり？

体、火照りがとれなくて大変なんじやないかな？

ほら…うん…（右耳舐め5秒）

俺が、慰めてあげるから……一緒に、俺のウチに行こう…』

【ヒロイン『……いや……】

SE..衣擦れ音

D H M .. ①寄り

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

樹 「（嘲るように）イヤだつていうんだつたら、

さつきの事、店長にいつてもいいんだよ……

さすがに、店の更衣室でオナニで、ヤバすぎるよ、
痴女じやなきや、そんなこと絶対できない……」

【ヒロイン『そんなんのはしてないつ…』】

【ヒロイン、首を振る】

SE .. 衣擦れ音

樹 「（嘲るように）そんな事してないつて？ ははは、確かに、
でも α と β 、店長はどうちを信じると思う？」

D H M .. ⑦寄り

樹 「（耳元で囁く）歯科衛生士になりたいでしょ……

あなたが思つてる以上に、歯科業界は狭いよ……

俺は医者の家系だと言つたよね。

もし、あなたがバイト先でオナニしたつて」とを、

俺がうつかり家族に話してしまつたら、

あなたはこれから、歯科衛生士の仕事を見つけられるとと思う？

……ねえ、どうする？ 俺のウチに来る、それとも……」

（3秒の間）

【渋々頷くヒロイン】

SE .. 衣擦れ音

D H M .. ①寄り

樹 「ふふ…いい子だ。一緒に俺のウチに行こう……続き楽しみだね……

（軽くキス数回 フェードアウト）」

■ トラック 6

※ トラック5の続き、樹のマンションの寝室、話し合う二人

○ 場所：樹の寝室（夜）

【樹、後方からヒロインに近づく】

SE.. 樹の足音

D H M .. ⑬ ↓ ⑤

樹 「（嬉しそうに）まさか、大人しくここまでついてきてくれるとは思わなかつたな……あなた、ずっと逃げたそうな顔してたもん……」

タクシーの中で、マンションに着いたとたん逃げられたどうしようつて、ずっと考えてた……でも、杞憂だつたみたい……」

【樹、後方からヒロインを抱きしめる、髪の匂いを嗅ぐ】

SE.. 衣擦れ音

SE.. 髪擦れ音

D H M .. ⑤寄り

樹 「（髪の匂いを嗅ぐ5秒）

（酔いしれるように）はあ……いい香り…

シャンプーなにつかつてるの？

それとも、フェロモンの香りかな？

……のはそんなの出ないつて……ふふ……わからないよ
性別がある日突然変わることつてあるみたいだし、

あなた、もしかしたらのになりかけてるのかな？

そうだとしたら、俺と本当の意味で番になつちやうね……はは……」

【ヒロイン『……そんなはずない……』】

樹 「……そんなはずないつて、なに怯えてるの？

じゃあ、あなたが、ひになつてないか試してみよつか……」

【ヒロイン、ベッドに押し倒される】

SE..押し倒される音

D H M ..①

樹 「（嘲笑うように）ほら、体の火照りだつてまだとれてないだろ？ちゃんと、責任とるからさ……

あれ、ベッドに急に押し倒されてビックリした？」

【ヒロイン『……ちょっと待てつ…』】

樹 「ちょっと待てつて。やだよ……

俺だつて、何日もあなたに避けられてご無沙汰なんだ、それに、ずっとあなたにふれられなくて気が狂いそうだつた……」

【ヒロインの下半身に触れる。】

SE..衣擦れ音

SE..水音適宜

D H M ..①寄り

樹 「（嬉しそうに）ほら、あなたのココだつて俺のことが忘れられないんだろ！」

はは、思つたとおりグチヨグチヨだ……

ちょっとと指触つただけで……はは……いい声で鳴くなあ……」

【ヒロイン『……やめてつ…』】

樹 「（甘々の感じで）やめてつて……また、ウソばつかり言つて、ヤダよ。

こんなに興奮して濡れてるのに、やめるわけなじやん

やめたら、困るのはあなただよ、

だから、慰めてあげる！ ほら、服脱がせてやるよ！」

【樹、無理やり衣服をはぎ取る】

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

SE..服を脱ぐ音 少し時間をかかる

樹 「……んつ、 ふつ…

（うつとりとした様子で）ああ、もう乳首がこんなに立ち上がり……
あの日も、俺はあなたの乳首から優しく責めていつたんだつけ……
ほら、こんな感じで……」

【ヒロインの乳首を弄る樹。】

SE..肌擦れ音

樹 「……こんな風にコリコリの乳首を弄つて……
いまみたいに、あなたをアンアン鳴かせて……
でも、乳首の味はまだ試してなかつたよね……
構えなくとも大丈夫だよ……
ちょっと、味見するだけだから……」

DHM..①少し下（胸らへん）

樹 「（右乳首舐め5秒）……んつ、ふつ……ん……はあ……
（楽しそうに）ふふ……やつぱり、母乳とかは出てこないか、だよね。
妊娠するにしても、まだ出てこないよね（右乳首舐め5秒）
ひょつとしてつて、思つたんだけどなあ……（右乳首舐め5秒）」

樹 「……んつ、こちら（左乳首舐めしながら）……はあ……
それはないつて、なに急に血相変えて……
そつか、♂の精子は妊娠しやすいからねえ……
ふふ……まあ、そんな簡単なはずないよね……んつ……
だから、何度もする必要があるんだ……（左乳首舐め10秒）……んつ……はあ……
じやあ、続きしようか、あの日みたいに、人差し指から始め、よう、つ……」

【ヒロインの足を広げる樹。】

SE..肌擦れ音

SE..指の挿入音

DHM..⑦寄り

樹 「はは…すつごく奥まで入つていくね…」

ほら、ズブズブつて嫌らしい音までして…

あなたもいい声で鳴いてる、

あの日の続きができて嬉しいんだね、

俺のつて、まだから特別デカいんだ…

この前は乱暴にしゃつたけど…

今日は俺のあなたの中が傷つかないように優しくほぐしてあげるね

ほら、もつと、もつと気持ちよくしてあげる…

少しずつ慣らしていこうか…」

樹 「（楽しそうに）ほら、もつと奥まで突いてあげるよ…」

はは！ 切なそうな喘ぎ声もいいねえ…その調子だよ。

あの日を思い出して…もつと、もつと、俺を感じて

ほら、中指も増やそうか…」

【ヒロイン『……ダメつ…』】

樹 「（楽しそうに）どう？ ダメつて、何がどういうふうにダメなの？」

ほら、説明してくれないとわからないよ…話せないって、どうして？

ああ、俺がこうやつてここを弄つてるせい？

ふふ…また、いい声がてるね…ほら、もつと突いてあげる、

はは…さつきよりも気持ちよさそう…じゃあ、薬指も入れてみようか…」

SE..指の挿入音

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

樹 「（楽しそうに）あはは……」の前のセックスで広がつたせいか、
スムーズに入つていくね…ほら、さつきよりずっと奥を指が犯していくよ…
どう？ 今度はどんな感じ？ ああ……もう、話もできないか、
よがり声ばつかり上げて……」

【ヒロイン『んつ、んあつ…!』】

樹 「ハハ、俺がたくさん弄つたせいでびちやびちやだね、
ちょっと舐めてきれいにしようか？」

【ヒロイン『……やめて…』】

樹 「脚を広げないとちゃんと舐められないだろ。

ほら、ちゃんとこの前みたいに気持ちよくしてあげるから……」

D H M .. ①下寄り（下半身らへん）

樹 「（クンニしながら）うん…はあ…うん…はあ…
(楽しげに) 相変らず凄い量の愛液だなあ……」

それに、ちょっと味も変つてる気がする、なんか、味の中にいい香りが混じつてゐる。
本当にあなた、BからOになつちまつたのかもね……」

【ヒロイン『……そんな、こと、ないつ…』】

樹 「（クンニしながら）わからぬよ……あん…はあ…
運命つて案外そういうもんかもしれないし……
ほら、うん…もつと、舐めてきれいにしてあげる……
うん…はあ…うん…はは…体ビクビクさせて気持ちいいんだな…はあ…う
はあ…うん…はあ…穴の中もキレイにしないと…ううん…」

【ヒロイン『はあ、はあ…んつ…』】

樹 「（クンニしながら）ああ、いい声だ…はあ…はあ…
いいよ…、そのまま鳴き続けて…いいよお…はあ…
ねえ、俺の舌…あなたの下の口がギュつて締め付けてきてた、
ちぎつたりしないでね…うん…はは…
ついでに、こつちもキレイにしてあげる…
クリちゃん…ヒクヒクしててカワイイ…うん…はあ…うん…」

【ヒロイン、絶頂をする。】

SE・潮吹き

D
H
M
..
①寄り

樹 「（嬉しそうに） うわっ！ 深い！ 潮吹いたね、この前と同じ……」

そんなにクリちゃん舐められたのが気持ち良かつたんだ、

ねえ、気持ちよかつたよね？

そんなの答えられないって、素直じゃないなあ……

じやあ、次は俺のこと気持ちよくしてよ……」

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

■ ト ラ ッ ク 7

※ ト ラ ッ ク 6 の 続き

○ 場所 .. 樹の寝室 (夜)

【樹、ズボンのベルトを外す】

SE .. ベルトを外す音

SE .. チャック音 & 衣擦れ音

D H M .. ①上 少し離れ

樹 「(うつとりとした様子で) ほら、見て俺の……」

これがこの前、あなたに種付けした俺の息子だよ、

あなたのせいにこんなになつちやつてるんだ…

俺も、あの日のことが忘れられなくて……

ずっとあなたを頭の中で犯しながらオナニーしてたんだ……」

【樹、ペニスを弄る】

SE .. 水音適宜 (手コキ)

樹 「はあ…はあ…なあ、俺のここも慰めてくれよ……」

俺が、あなたにしたみたいに……そしたら、これ、治まるから…

ほら、さつさと舐めて……もう、限界なんだ……」

SE .. 水音 (手コキ) 止め

【ヒロイン、フェラチオ開始】

SE .. 衣擦れ音

SE .. 水音適宜 (フェラチオ)

樹 「ああ…そう…鈴口…そこ…チロチロつてそう…そう舐めて…」

あと、筋裏の方もなんか痒いから…早く…ああ…そう…そんな感じ…

もつと、もつと舐めて…しょっぱいって…へえ、先走りつて味がするんだ…

…まだダメだよ…ちゃんと最後までしてくれなきや…」

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

SE..水音適宜（フェラチオ デイープストローク）

樹 「……はあ……んつ……ほら、今度は俺の咥えて、顔を前後に動かして、ちゃんと、俺の吸いながらやつてね……ああ！ そう……」

樹 「あなたの中に入つてるときと同じ感覚だ……あん…いいよ、その調子……もつと、もつと動き速くして……そう、それでいいから……はあ…いいよお…気持ちいい…本当に…最高だあ…ああ…動きが違う……ちよつと、頭貸して、俺が動かすから……！」

【ヒロインの頭を抱きしめる】

SE..髪擦れ音

樹 「はあ…あああ…はあ……こう！ こう動かして！ もつと、もつと速く！

「こう！ こんな感じで！ うああつ…！ はあつ、あつ…！」

ダメだ…もう……ごめん、受け止めてくれ……ああ…！ はあ…はあ…いいぞ、この感覚……もう少しでいけそうだあ！ はあ…はあ…はあ…は、くつ、はあはあ…ああああああ…つ…！」

【樹、絶頂をする。】

SE..水音止め

SE..射精音

樹 「息を整える5秒） うん……あああ…！」

【樹、ペニスを口から抜く、ヒロイン咳き込む】

SE..粘つた水音（ゆっくり引き抜く）

D H M..①上

樹 「（怒った様子で） なに咳き込んでるの…ああ…」

飲まないで吐きだしちゃつたね……俺の大切な精液……」

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

【樹、ヒロインの頸を掴む】
SE..肌擦れ音

D H M ..①寄り

樹「ほら、ちゃんと、口に残った精液も飲んで！」

【ヒロイン、精液を飲み込む】

樹「（興奮した様子で）はは……ちゃんとごっくんできたな、偉いぞ……
じゃあ、ご褒美をあげないと……」

【樹、ペニスを弄る】

SE..水音適宜（手コキ）

D H M ..①

樹「はあ……はあ……何するのって、もうそんなの決まってるだろ……
あなたの中にこいつを挿れるんだよ……」

今度こそ、俺の子どもを孕ませてやる、だから、俺を受け止めて！
ほら、脚開いて……俺のちんこぜんぶ、ぶち込んでやるよ……」

【ヒロイン『さつきのはもう充分だろ、もう、いやだつ…』】

樹「（嘲笑いながら）イヤだつて？……充分つんなわけねえだろ……
もう聞き飽きたよそれ！ ほら、こっち来い！」

SE..水音止め

【樹、ヒロインを抱き寄せる】

SE..ベッドの軋み音

SE..シーツ擦れ音

SE..挿入音

【寝バックでセックスするふたり。】

33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		

樹 「んつ…はあ……（嘲笑いながら） はは……一回目だからかな…
すんなり入つていく…………はあ……んつ、んつ…
あ一つ、ねえ、俺と何もしてない間、他の男と体の関係とか持つてないよね？」

【ヒロイン『……そんなこと、ないつ…』】

樹 「そつか、ずっと、俺としたくて我慢してたんだね……
ご褒美に、今日はいっぱい種付けしてあげるよ！
（ゆっくりピストンに合わせてあえぎ声10秒）」

D H M : ⑤寄り → ③寄り

樹 「……はあ……どう……ゆっくり責められて、俺に犯されてるつてよくわかるでしょ？
ほら、俺の息子がさ…あなたに締め付けられてすつごく苦しそう…
ああ……でも、そのたびに、メチャクチャ興奮して固くなつてるので、
自分でもわかる……（左耳舐め10秒） はつ…んつ…
あなたとひとつになれて、俺すつごく嬉しいよ、
ねえ、あなたもそうでしょ？
ほら、もつとスピードあげるからさ、俺を感じて……
（左耳舐めしながら ピストンに合わせてあえぎ声10秒）」

樹 「（台詞の合間で左耳舐めしながら）
はあ…はあ…いいよ……すつごく締め付けてくる……その調子だよ…
その調子で、俺をどんどん追い詰めて、
そうすれば、もつといっぱい俺の精液、出るから！
（ゆっくりピストンに合わせてあえぎ声10秒）」

1 樹 「……んつ、はあ……そしたら、あなたが妊娠しやすくなるから、
ああ！ はあ……気持ちいい……
(ゆっくりピストンに合わせてあえぎ声10秒)」

5 樹 「こんなに気持ちいいの初めてだ！
はあ！ 嬉しいよ、あなたが俺を受け入れてくれて！

6 ……つ、んんつ……！あなたはずつと俺のものだ！
俺のものになるんだ！ ああ！ ダメだ、もう、出そう…

（絶頂に向けてあえぎ声20秒）

はあつ、くつ……イク……はあつ、あつ、ナカにつ……！
あつ、イクつ、はつ、んつ……！ あ、ああああ！」

【樹、絶頂をする。】

SE.. 水音止め
SE.. 射精音

【樹、ヒロインの顔を自分に向ける】

SF..肌擦れ音

【ヒロイン『んっ…』】

D H M .. ⑤↓①寄り

8 樹 「（うつとりとした様子で） ああ……気持ちよさそう！
最高に良い顔してるね！

あなたも俺と同じぐらいすつごくすつごく感じてるんだ！
こんなに感じ合ってるんだもん、俺たち、やつぱり、運命の番なんだよ！

ああ……大好きだ！ 好き！

うん…はあ…うん…（ディープキスしながら ピストンに合わせてあえぎ声10秒）

D H M .. ①寄り↓⑥寄り

17 樹 「んっ…はあ…ねえ、言つて。俺のこと好きつて言つて…ああ…
そんな叫ばなくともいいよ、ちゃんと、伝わつてるから！

あなたと俺は思い合つてるんだ！

やつぱり、俺たちは結ばれる運命なんだ！

（ピストンに合わせてあえぎ声10秒）

23 樹 「ああ…また来た…早い…

24 はあ…んつ…でも、でも、受け止めて！
俺のことつ…受け止めて！

（1分ほど激しいめの呼吸のみ）

27 はあ、んつ…いくつ…あつ、んつ…！ イくつ…！ あああん！」

【樹、絶頂をする。】

SF..水音止め

30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8
SF..射精音 勢いよく↓段々弱く

D H M .. ⑦寄り

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8

1 樹 「（息を整える10秒）はあ……はあ……まだ出てる……から、気持ちいい……
 2 （何度も唾ゴクン）つそれに、まだいける！
 3 ねえ、もっと、もっと出すからね。
 4 俺の子どもをちゃんと孕めるようにしてあげるから！
 5 だつて、俺たち愛し合つてるんだからいいよね！」
 6
 7 【ヒロイン『…………もう…………して…………』】
 8
 9 樹 「…………してつて、俺をやつと受け入れてくれた！
 10 いいよ、もっと、もっと気持ちよくしてあげる！
 11 （右耳舐め10秒）」
 12
 13 【再びピストンを始める樹】
 14
 15 SE .. 派手めの水音 & 肉を打つ音 激しく
 16
 17 樹 「あー、いい。俺のちんこ、もう慣れた？ ナカで吸い付いてくれんの。
 18 ……はあつ……んつ……つ……変な気持ちになる……もっと、もうつと……
 19 ギュウギュウつて、ナカ締め付けて……（右耳舐め10秒）
 20 俺を、求めて……ああー、俺を、愛して……！ はあ、はあ……
 21 （激しいピストンに合わせてあえぎ声10秒）」
 22
 23 【ヒロイン『…………もう……ゆる…………して…………』】
 24
 25 樹 「…………はあつ、んつ……（動きを止め）許してつて、何を言つてつ……
 26 ああー、キス、キスして欲しい？
 27 いいよ、しよう……いっぱいしよう！」
 28
 29 【樹、ヒロインの顔を自分に向ける】
 30 SE .. 肌擦れ音
 31
 32 D H M .. ①寄り
 33

1 樹 「はあ…あん…はあ…あん…」（ディープキス5秒）
2 気持ちいいよ、こんな気持ちいいキス初めてだ……。
（ディープキスしながら ピストンに合わせてあえぎ声10秒）」

5 樹 「……んつ、ああつ…もう、とつくにおかしくなつてるのに……
ああ！ もうちょっと！ もうちょっとでくるから！ はあ…あん…はあ…
（ディープキスしながら ピストンに合わせてあえぎ声10秒）」

4 D H M ..①寄り→⑤寄り

10 樹 「んつ…はあつ、あなただから、

11 受け止めて、俺の愛を…あなたじやないとダメなんだ……

12 あー、前の噛み跡、もう消えそう……

13 もう一回噛んであげる、今回は、前より深く、前より消えにくく、してやる……

14 あなたは俺の物の証、俺の番の印……

15 射精しながら、噛んでやる、俺を、ちゃんと、感じて……

16 （激しいピストンに合わせてあえぎ声10秒）」

17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33

樹 「んつ…はあつ、ナカ、すつげえ締まつてる……

子宮も、嬉しそうに、きゅんきゅんしてるの感じるつ。

あつ…んつ…身体ビクビクしてきた……気持ちいい？

俺の番になつて、嬉しい？

ああー……愛してる、愛してる！ もつと、俺を、愛して……！

（絶頂に向けてあえぎ声20秒、理性の無い様に）

ああ！ くる！ くるよ！ あなたは、あなたは俺のものだ！

ああ！ あああああああ！ うんつ…！

（絶頂と同時にヒロインのうなじを噛む、力強く）」

【ヒロインと樹、絶頂をする。】

SE..水音・ピストン音止め
SE..ベッドのスプリング止め
SE..射精音 ドロドロ

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

- 1 樹 「（息を整える15秒）はあ……はあ……これで、これで孕んだかなあ……」
 2 あなたが俺のものだつてこと、ちゃんと証明できるようにな……
 3 はは、噛み痕、くつきりついちやつたね……
 4 （噛み痕を舐める10秒）
 5 これで誰も、あなたに手を出せない……
 6 （噛み痕を舐めながら）大丈夫。消えたら、またつけてあげるから、
 7 もう、あなたは俺のものなんだ……
 8 ずっとずっと、俺の側にいるんだ……
 9 （噛み痕に軽くキス 数回）」
 10
 11 【樹、ヒロインの顔を自分に向ける】
 12 SE..肌擦れ音
 13
 14 DHM..⑤寄り→①寄り
 15
 16 樹 「ねえ、キースしよ……ねえ？」
 17 「はは、、また氣失つちゃつた……」
 18 αとのセックスは大変だから、よく頑張つたよ～
 19 ゆっくり休んで、おやすみ（軽くキス 数回）」
 20
 21 SE..粘つた水音（引き抜く）
 22
 23
 24
 25 【事後、目覚めるヒロイン、話しかける樹】
 26 SE..シーツ擦れ音
 27
 28
 29
 30 DHM..②
 31
 32
 33 樹 「（うつとりとした様子で）あ、起きた？……心配しなくてもいいよ……
 体はもうきれいにしてあげた、シーツも変えたよ～」

1 樹 「はは、あなた、ずっと寝てつて、きっと疲れてだんだ。
 2 ねえ、凄く気持ちよかつたね……」
 3 あなたも最初は嫌がつてたのに、途中からすつごく俺のを締めつけてくれて……
 4 何度も好きつて言つて、俺はあなたの中に愛を注ぎ込んで……
 5 ねえ、これからもずっと一緒にいようね、俺たちは、運命の番同士なんだから……
 6 ……ねえ、なんで何も言つてくれないので？ あんなに愛し合つたのに……」
 7 8 【ヒロイン『……もう、満足した？ お願ひ……これからは、私を忘れつて……』】
 9 10 D H M .. ②↓①
 11 12 樹 「（動搖した様子で）満足した？ って、私を忘れつて、つて、どういうことだよ……
 13 あんなに、俺のこと好きつて言つて……求めてくれて……」
 14 15 16 17 樹 「……言つてないつて……ねえ、なに言いだすの？」
 18 19 俺たちやつと結ばれたのに、なんでそんな……俺を、突き放すようなこと……
 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 樹 「（嘲笑しながら）はは、そうか……わかった。だつたら、体でわからせればいいんだ……
 いいよ、これから時間をかけて、ゆつくり好きになつて、
 なんど拒絶しても、体で教えてあげるから……あなたはもう逃げられない……」
 【ヒロインを抱きしめる】
 SH..シーツ擦れ音
 D H M .. ③寄り

（①寄り 軽くキス数回 フェードアウト）』

（終）